

創業以来の不変の理念である 「創造 貢献」の意味を問い続け、 CSR経営を深化させてまいります。

「創造 貢献」を理念として

カシオの経営理念は「創造 貢献」です。これはカシオ計算機という会社が、機械式計算機が主流であった時代に、小型純電気式計算機の発明により創業したことに由来します。それ以来私達は「世の中に無い独創的なモノづくりを通じて、人々の暮らしを豊かにすることで社会に貢献する」ことを使命としてきました。

そのためには、人々の気づかなかった潜在的なニーズを掘り起こし、それを独創的でありながら身近な製品やサービスとして提供しなければなりません。そしてさらには、技術や製品やサービスを提供するだけに止まらず、私達はこのことを通じて「新しい生活や文化を創造する」ことを常に見据えてきました。

その意味で、この「創造 貢献」という四文字は、どんなに時代が変わっても決して変わることはない、カシオの存在意義を明確に示した経営理念であるといえます。これからもカシオが社会に役立ち人々に喜びと感動を提供する企業であり、持続可能な地球社会の一員として存続するために、私達は常にこの「創造 貢献」の意味を問い続けて行かなければなりません。

CSR活動の取り組み

一方、わが国において2004年は「CSR元年」と言われ、多くの企業で様々な取り組みを始めた他、いろいろな団体でCSRについての定義がなされました。しかしながら、それぞれの団体の視点によって、CSRの範囲や

企業に期待する役割が異なることから、その定義は必ずしも統一的なものではありません。

カシオにおいては、2004年にCSR推進室を設置するとともに、取締役と監査役で構成するCSR委員会を立ち上げ、CSRに関する各種テーマを審議する体制を整えました。また、同年には1999年より発行している「環境報告書」に社会との関わりについての記述を加え、「環境経営報告書」として開示内容を拡大しました。

以来、コンプライアンス体制の強化、プライバシーマークの取得、国内主要事業所でのゼロエミッション達成、環境法規制への対応、CSR調達の推進、CSR報告書の発行等々、幅広くCSR活動を推進してきました。

CSR経営の推進のために

しかし、企業に対する社会からの期待や要請がますます強くなっている今日、経営の透明性と公正性を確保し、企業価値の向上を図るためには、改めて「創造 貢献」という創業の原点に立ち返り、事業活動とCSR活動を同一線上に位置づけて推進しなければなりません。

そこで私達はCSRのさまざまな側面に対し、以下に掲げるコミットメントを誠実に遂行することにより、CSR経営を推進してまいります。

- 創業以来脈々と続く不変の理念である「創造 貢献」を実現するために、カシオ創造憲章とカシオ行動指針を順守します。
- グローバルサプライチェーンの全てにおいて、関連

法規等を順守するとともに、内部統制体制を構築し、実効性のあるコンプライアンスとリスクマネジメントを機能させ、企業価値の向上に努めます。

- 本来の事業活動を通じて、地球社会のさまざまな問題解決のために新しい価値の提案を継続的に実施します。
- 製品やサービスの創出プロセスにおける省エネルギー、省資源、エコ効率の統合に配慮した環境イノベーションを一貫して実施します。
- 非財務情報についてもすべてのステークホルダーに分かりやすく開示し、相互コミュニケーションを活発化することにより、さらなる経営の透明性を追求します。

また、今回発行する「コーポレートレポート」を、カシオとステークホルダーの方々をつなぐ重要なコミュニケーションツールと位置づけています。

カシオでは、従来は「会社案内」と「CSR報告書」を別々に発行していましたが、それぞれの読者に、よりカシオを知っていただくことを目的として、両者を一体化した「コーポレートレポート」として発行することとしました。また、冊子ではご紹介しきれない詳細な情報については、Web上に開示することとしましたので、併せてご覧いただければ幸いです。

今後ともCSR経営を推進し、深化させていく所存ですので、皆様方の忌憚のないご意見をお聞かせいただけますようお願い申し上げます。



代表取締役社長 梶尾和雄